

平成 30 年 4 月 11 日
高校改革推進室

東南置賜地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会の「中間報告書」に係る
意見募集の結果について

1 意見の募集期間 平成 30 年 2 月 7 日（水）から 3 月 9 日（金）まで

2 ご意見の件数 15 件（意見提出者 2 名）

3 寄せられたご意見の概要及び教育委員会の考え方

番号	分類	主な意見の概要	県教育委員会の考え方
1	高校再編全般について	○ 長期的な視点に立ち、複数の高校を統合するなど大胆な高校再編が必要である。残すべきものは、「おらが町の学校」や「私の母校」ではなく、未来の子ども達にとっての「多様な選択のできる教育環境」である。(1 件)	○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第 5 回検討委員会における検討の参考としていただきます。
2	高校再編全般について	○ 統廃合となれば、同窓生をはじめとする地域の方々から、惜しむ意見等が出るのが想定されるが、地域が置かれている少子化の現状を数字で示して丁寧に説明を行えば、十分理解してもらえるのではないか。(1 件)	○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第 5 回検討委員会における検討の参考としていただきます。
3	高校再編全般について	○ 東南置賜地区にある高校に、西置賜地区から通学する生徒が多い高校もある現状を踏まえ、東南置賜地区だけでなく、西置賜地区も含めて置賜地区全体を見通した再編整備の検討が必要ではないか。(1 件)	○ ご指摘のとおり、高校再編については、置賜地区全体を鑑みて検討する視点は大切であると考えますが、通学距離や地域における高校の存在意義などにも十分配慮する必要があることから、地区単位での検討を依頼しております。いただいたご意見については、検討委員会にしっかりお伝えし、第 5 回検討委員会における検討の参考としていただきます。
4	高校再編全般について	○ 将来的には、人口集中地区に高校を統廃合し、町部（高島町、川西町、白鷹町、小国町）にある高校は、近隣の市に集約されるべきである。東南置賜地区、西置賜地区にそれぞれ設置	○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第 5 回検討委員会における検討の参考としていただきます。

		<p>が可能な学科は米沢市、長井市に集約し、両地区に設置することが難しい学科は、公共交通機関（鉄道）のアクセスがよい長井市（今泉駅）、南陽市（赤湯駅）に高校を立地して集約することで広域からの通学に対応した学校配置となるのではないか。（1件）</p>	
5	高校配置について	<p>○ 地域の中学生・保護者が望む学科、市町の中学校卒業生数、校舎立地や通学手段の確保等、総合的に勘案すると、次の高校配置案となるのではないか。</p> <p>平成 36 年度までの高校配置案としては、米沢市に普通科と探究科を併設する米沢興譲館高校 A と、米沢東高校と米沢工業高校を統合して米沢工業高校の校舎を活用する普通科と工業科を併設する新高校 B の 2 校配置とし、新高校 B には定時制を併設する。また、南陽市に米沢商業高校、南陽高校、置賜農業高校の 3 校を統合して、普通科、商業科、農業科を併設する新高校 C、高畠町に総合学科の高畠高校 D を配置する。</p> <p>将来的な高校配置としては、米沢市には上記の米沢興譲館高校 A、新高校 B の 2 校を配置し、南陽市には新高校 C と高畠高校 D を統合して、総合学科の新高校 D を配置し、定時制も併設する。（1件）</p>	<p>○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第 5 回検討委員会における検討の参考としていただきます。</p>
6	高校立地・通学について	<p>○ 米沢興譲館高校の現在の立地は、人材育成や長期的な競争力、リーダー育成等において大きなマイナスとなっており、通学環境が悪く、保護者の送迎の負担が大きい。米沢市の中心部へ移転してほしい。（1件）</p>	<p>○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第 5 回検討委員会における検討の参考としていただきます。</p>
7	校舎立地・通学について	<p>○ 再編整備に伴い新校舎を建築する際は、広域からの通学が可能となるよう公共交通機関（特に鉄道）のアクセスを考慮し、保護者の送迎に頼らず通学できる場所への立地が必要である。公共交通機関での通学に便利な今泉駅、赤湯駅周辺への新校舎建設が望ましい。また、高校生の利用が促進されれば、鉄道事業者の収益性も上がり、公共交通の維持につながる。（1件）</p>	<p>○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第 5 回検討委員会における検討の参考としていただきます。</p>

8	校舎立地・通学について	○ 高校への交通アクセスは、高校選択の重要な要素となっているので重視すべきである。 (1件)	○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第5回検討委員会における検討の参考としていただきます。
9	校舎立地・通学について	○ 米沢商業高校にある商業科と置賜農業高校にある農業科は、置賜地区に唯一ある学科である。置賜地区の中学生に広く選択肢を提供するため、この2つの学科をもつ高校は、公共交通機関で通学しやすい南陽市に立地することが好ましい。(1件)	○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第5回検討委員会における検討の参考としていただきます。
10	学校規模について	○ 多様な生徒の学習ニーズに対応するため、1学年3学級以下の小規模校を極力つくりたくない方がよい。特に、1学年2学級以下の高校は、他の高校との統合が必要ではないか。学校規模を大きくすれば、多忙な教職員の負担軽減にもつながる。(1件)	○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第5回検討委員会における検討の参考としていただきます。
11	私立高校との関係について	○ 私立高校の健全な学校経営の視点から、県立高校と私立高校の学級数のバランスを考えなければならない。米沢市内にある県立高校の市外への移転や普通科の学級減が必要ではないか。(1件)	○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第5回検討委員会における検討の参考としていただきます。
12	専門学科について	○ 川西町在住の中学生が置賜農業高校に進学する割合は3割を下回っており、地域の高校としての色合いは薄くなっている。分校化や、統合によりスクールバスで移動して、曜日ごとに授業を配置するなどが考えられる。(1件)	○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第5回検討委員会における検討の参考としていただきます。
13	中高一貫校について	○ 米沢東高校と米沢工業高校を統合し、普通科と工業科を併設する新高校を米沢市内に設置することが望ましい。普通科の中高一貫教育の他、既存の米沢工業高校専攻科とあわせて、最大8年間の一貫教育といった特色をもたせることができる。(1件)	○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第5回検討委員会における検討の参考としていただきます。
14	定時制について	○ 多様な生徒の受け皿や学び直し場として、定時制は必要である。当面は、米沢東高校と米沢工業高校を統合した米沢市内の新高校に設置すべきであるが、将来的には、西置賜地区の生徒の受け入れも考え、公共交通機関の便がよい南陽市内の高校への設置も考えられるの	○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第5回検討委員会における検討の参考としていただきます。

		ではないか。(1件)	
15	定時制について	○ 昼間定時制への移行は、在籍生徒の現状を見ながら慎重に議論していく必要があるのではないか。(1件)	○ 検討委員会にしっかりお伝えし、第5回検討委員会における検討の参考としていただきます。